

研究主題

自分の思いをのびのびと表現できる子どもの育成

- 国語科における教師の発問・子どもへのはたらきかけの工夫を通して -

第3学年*組 国語科学習指導案

場 所 3年教室

指導者 長谷川 真紀

1 単元名 場面の様子を思いうかべながら読もう 「手ぶくろを買いに」

2 目 標

進んで作品を読み、自分の考えや思ったことを話し合ったり、書いたりしている。

母さんぎつねと子ぎつねの人間観を対比させながら、人物の内面やその変化、各場面の情景を叙述を基に想像しながら読むことができる。

美しい情景描写を読み、物語の中での効果に気付くことができる。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、新学習指導要領、第3学年及び第4学年の目標(3)及び内容C読むこと(1)ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」、オ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」に関連する単元である。また、本単元は、登場人物の様子や気持ちを読み取り、さらに読書に広がりや深みを加えることができる単元である。

本教材「手ぶくろを買いに」は、美しい雪の情景を背景にして、幼く無邪気な子ぎつねを主人公に物語は展開していく。その中で、母さんぎつねの子ぎつねに対する愛情や母子の温かい交流、子ぎつねと母さんぎつねの経験の違いからくる人間観の違いが描かれている。児童の興味や共感を得やすい物語であるとともに、人間について深く考えさせるものを含んでいる。叙述に即しつつ、場面の移り変わりに注意して読むことで、確かな読解力と豊かな感受性を育成できる教材である。

(2) 児童の実態(男*人 女*人 計*人)

項 目	項 目
A 学力診断テストの結果(正答数) *月*日実施(*人)	B 単元テストの結果(正答数) (*人)
ア 場面の様子を想像しながら読む力 *人	エ 叙述に即して場面の様子を読み取る力
イ 叙述に即して人物の気持ちを読み取る力 *人	・ 物語文「すいせんのラッパ」(4月) *人
ウ 人物の気持ちを想像しながら音読する力 *人	・ 物語文「ゆうすげ村の小さな旅館」(6月) *人
エ 叙述に即して場面の様子を読み取る力 *人	・ 物語文「木かげにごろり」(9月) *人

児童は、3年生の既習教材「すいせんのラッパ」「ゆうすげ村の小さな旅館」「木かげにごろり」の学習を通して、場面の様子を思い浮かべながら音読したり、叙述に即して人物の気持ちを読み取ったりする学習をしてきた。上記の表は、物語文を読む力のみを抽出した学力診断及び単元テストの結果である。叙述に即して読み取ることを苦手とする児童が多かったため、物語文を読み進める際に、キーワードを押さえながら読み取る学習をしてきた。その結果、叙述に即して場面の様子を読み取る力が徐々に上がってきていることが分かる。

(3) 指導観（研究主題に迫るために）

本単元では、場面の移り変わり、人物の行動や気持ちを出来事の流れに沿って読み取り、小グループや学級全体での話し合いによって深めていく。読み取ったことを友だちと交流、共有することで、確かな読む力と豊かな表現力を育てたい。そのためには、辞書の活用や教材文への自由な書き込みを通して、一人一人に細やかな読みをさせることが不可欠である。人物の行動や気持ち、情景を表す言葉や、擬態語や擬声語に着目させることで、叙述に即して場面を豊かに想像できるようにしたい。そこで、内容を読み取る時に、「母さんぎつねの人間観」「ぎつねの人間観の変化」「母さんぎつねの人間観の揺れ」を考えていく課題を提示し、叙述に即した読みが深まるようにしたい。また、時や場所を表す言葉を手がかりに場面分けをし、登場人物の様子や気持ちを読み取ることで、物語に興味をもち、読書活動への意欲付けになるものとする。

本時では、ぎつねの人間観の移り変わりを、ぎつねの行動を中心に読み取らせたい。その際に、ぎつねの気持ちに変化が見られる五つの場面を心情数直線に表す。このように、ぎつねの気持ちの動きを視覚化することで、友だちとの考えの違いが明確になり、話し合いの視点がとらえやすくなると考える。最後に、それぞれの気持ちを線でつなげることで、心情曲線になることにも気付かせたい。これらの活動を通して、母さんぎつねから「人間は恐ろしいもの」と教えられていたぎつねであるが、帽子屋で手袋を買うといった体験を通して生じた人間観の変化や、人間のことを「ちっとも恐ろしくないや。」という思いに至るまでの気持ちの変化に迫りたい。

4 指導と評価の計画（12時間扱い）

次	時	主な学習活動	関	読	言	評価規準
一	1	・教材文を読んで初発の感想をまとめ、学習の見通しを立てる。				・教材文を読むことに興味をもち、物語を読んだ感想をまとめようとしている。(ノート・発表)
	2	・新出漢字や意味の分からない言葉の学習をする。				・漢字の読み書きや言葉の意味を理解している。(ノート)
	3	・時や場所を表す言葉を手がかりに場面分けをし、登場人物の行動を一文で表す。				・場面ごとに、登場人物の行動を一文で表している。(ノート・書き込み用教材文)
二	1	・第1場面を読み、ぎつねの無邪気さや母さんぎつねの愛情を読み取る。				・登場人物、季節、場所、ぎつねの無邪気さ、母さんぎつねの愛情を読み取っている。(ノート・発表)
	2	・第2場面を読み、母さんぎつねの人間観がどう形成されたかを読み取る。				・母さんぎつねが、人間を恐いものと思うようになった背景を読み取っている。(ノート・発表)
	3	・第3場面を読み、帽子屋を探すぎつねの様子を読み取る。				・ぎつねが、帽子屋を探しながら暗い道を一人で歩く心細い気持ちを読み取っている。(ノート・発表)
	本時	・第4場面を読み、帽子屋で手袋を買ったぎつねの様子と人間観の変化を読み取る。				・帽子屋で手袋を買ったぎつねが、人間を恐くないと思始めるまでの気持ちの変化を読み取っている。(ノート・発表)
	5	・第5場面を読み、人間の母子の会話を聞いたぎつねの人間観の変化を読み取る。				・人間の母子の会話を聞いたぎつねが、人間はいいものと思始めるまでの気持ちの変化を読み取っている。(ノート・発表)
	6	・第6場面を読み、母さんぎつねとぎつねの人間観の違いを読み取る。				・人間は恐いものと思っている母さんぎつねとよいものと思っているぎつねの人間観の違いを読み取っている。(ノート・発表)
三	1	・その後の母さんぎつねについて自分の考えを書く。				・母さんぎつねの揺れる人間観にふれながら、その後の母さんぎつねについて書いている。(ノート・発表)
	2	・大切なことを落とさずに、あらすじをまとめる。				・接続語や指示語を使いながら、あらすじをまとめている。(ノート・発表)
四	1	・いろいろな物語に興味をもち、他の作品を選んで読む。				・教材文を読んだ経験を生かし、いろいろな物語を読んでいる。(読書記録・観察)

5 本時の学習

(1) 本時の目標

ぎつねが人間を恐くないと思始めるまでの気持ちの変化を読み取ることができる。

(2) 準備・資料

教師：拡大教材文、ぎつねの人間観を示す掲示物

児童：書き込み用教材文、ワークシート（ぎつねの人間観）

(3) 展 開

学習活動・内容	主な発問・指示	予想される児童の反応	指導上の留意点 (は評価, は研究テーマに迫るための手立て)
<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 子ぎつねが人間をどう思っているか考えよう。 </div>			<ul style="list-style-type: none"> 前時までの、子ぎつねの人間観を振り返る。 母ぎつねの人間観にも触れながら読み進めるようにする。
<p>2 学習場面を読む。 (P103 L 6 ~ P105 L 14) ・一斉読み</p> <p>3 子ぎつねの人間に対する気持ちが、帽子屋で手袋を買うときにどのように変化するか読み取る。</p> <p>(1) トントンと戸をたたいたとき</p> <p>(2) 戸がゴロリと開いたとき</p> <p>(3) 間違っただ方の手を隙間から差し込んでしまったとき</p> <p>(4) 白銅貨のチンチンというよい音を聞いたとき</p> <p>(5) 手袋を手にしたとき</p> <p>4 それぞれの場面の点を線で結ぶ。</p>	<p>帽子屋で手袋を買うときの子ぎつねは、人間のことをどう思っているでしょう。</p> <p>・それぞれの場面で図に表してみよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>いいもの</p> <p>↑</p> <p>いいもの</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>いいもの</p> <p>↑</p> <p>いいもの</p> </div> </div> <p>子ぎつねになったつもりで「トントン」と戸をたたいてみましょう。</p> <p>「ゴロリ」という音からどんな感じがしますか。</p> <p>「さしこんでしまいました」と「さしこみました」はどう違いますか。</p> <p>白銅貨の音が「よい音」に聞こえたのはどうしてでしょう。</p> <p>子ぎつねはどんな風にお礼を言ったでしょう。</p>	<p>・3の場面では、「こわいもの」と思っていたけど、今度はどう変わるかな。</p> <p>・ドンドンとは違うよ。 ・そっとたたいたんだ。 ・恐かったのかな。 ・「こんばんは」は小さい声だよ。 ・重たいドアなんだよ。 ・ゆっくり開いたよ。 ・ゴロリって怖い感じ。 ・びっくりしただろうね。 ・「さしこんでしまいました」は間違っちゃってしまっただね。 ・どうしようって思ったよ。 ・ドキドキしたよ。 ・白銅貨が本物だったからよかったと思ったんだよ。 ・これで大丈夫って思ったんじゃないかな。 ・安心したよ。 ・もう恐くないよ。 ・嬉しくて大きな声で言ったよ。 ・元気に言ったんじゃないかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決となるような言葉を探しながら、自分の速さで音読させる。 3の場面で学習した、帽子屋さんを探しながら一人で町を歩く子ぎつねの様子を想起させる。子ぎつねの人間に対する気持ちを図で表すことにより、変化をとらえやすくする。 自分の考えを図に表した後、2人組で意見を交換し、ノートに考えをまとめる。 母さんぎつねから聞いただけなので、本当の恐さはまだ知らないことを押さえる。 全員の考えを確認してから、次の発問に移るようにする。 手袋を渡してもらったことで、子ぎつねの気持ちが大きく変化したことに気付かせる。 子ぎつねは「いったい人間なんてどんなものか見たいと思った」ことから、人間を完全に恐くないものと思っているわけではないことを押さえる。 <p>子ぎつねの人間に対する気持ちの変化を、文章を手がかり読み取っている。 (ノート・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> 気持ちの変化がとらえられない児童には、子ぎつねの行動を動作化させながら考えさせるようにする。 自分の考えがノートにまとめられた児童には、発表の準備をしているよう話す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">手ぶくろ チンチン さしこんで ゴロリ トントン</p> <p>(例)</p> </div>			<ul style="list-style-type: none"> 五つの場面のそれぞれの気持ちを線で結び、横書きの心情数直線を縦にする(ワークシートを横にする)ことで、心情曲線になることを押さえる。 心情曲線から、子ぎつねの気持ちが大きく変化したことを視覚的にとらえさせる。
<p>5 音読をして、本時のまとめとする。 ・一斉読み</p>			<ul style="list-style-type: none"> 子ぎつねの心の動きを考えながら音読させる。